

へいわ と し せんげん

平和都市宣言



30

しゅうねん
周年

へいわ おも ひ つ
～平和への思いを引き継いでいくために～
1992-2022

へいわ と し せんげん
平和都市宣言

しゅうねん むか
30周年を迎えて

おやまし へいせい ねん へいわ と し せんげん おこな
小山市では、1992（平成4）年に「平和都市宣言」を行いました。
2022（令和4）年に、平和都市宣言から30周年を迎え、戦争の
ひさん へいわ とうと いのち たいせつ にんしき ふか へいわ じ だい
悲惨さ、平和の尊さや命の大切さについて認識を深め、いつまでも平和な時代が
つづ ねが 続くようお願い、このパンフレットを作成いたしました。



へい わ と し せん げん 平 和 都 市 宣 言

わたし おやまし ぶん めぐ ふうど ゆた でんとう みらい む やくしん きぼう
私たち小山市民は、恵まれた風土と豊かな伝統のもとに「未来に向かって躍進する希望あふれる
まち」小山市をめざしている。この将来都市像の実現は、日本の安全と世界の恒久平和なくしては
のぞ え
望み得ないものである。

わたし おやまし ぶん くに せかい ゆい いっ ひばくこく かくへいき おそ ひばくしゃ くる
私たち小山市民は、わが国が世界唯一の被爆国として、核兵器の恐ろしさと被爆者の苦しみを
せかい ひとびと うった つづ ふたた ちきゅうじょう ひろしま ながさき さんか く かえ
世界の人々に訴え続けるとともに、再び地球上に広島・長崎の惨禍が繰り返されることがないように
せかい こうきゅうへいわ つよ ねんがん
世界の恒久平和を強く念願するものである。

わたし おやまし ぶん せいめい そんげん ふか にんしき しょうらい くに ひかくさんげんそく けんじ
私たち小山市民は、生命の尊厳を深く認識し、将来にわたって、わが国の非核三原則が堅持される
とともに、平和を脅かす核兵器の廃絶と世界の恒久平和の達成のため努力することを決意し、ここに
へいわ と し せんげん
平和都市を宣言する。



平成4年7月1日
小 山 市



小さな自慢が
山ほどあります

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

小山市は持続可能な開発目標
(SDGs)を支援しています。

16 平和と公正を
すべての人に



おやまし へいわ とく 小山市の平和への取り組み

おやまし へいわ と し せんげん しゅし もと へいわ おびや かくへいき はいぜつ せ かいこうきゅうへいわ じつげん
小山市は、平和都市宣言の趣旨に基づき、平和を脅かす核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現をめざし、
ひろ し みる みな せんそう ひ さん へいわ とうと いのち たいせつ さいにんしき さまざま じぎょう
広く市民の皆さまに、戦争の悲惨さ、平和の尊さや命の大切さを再認識していただくために、様々な事業に
と くり 組 ん で い ます。



◆ へいわ てん 平和展

1995 (平成7) 年～



し みる ひ と り せんそう ひ さん へいわ
市民一人ひとりが戦争の悲惨さや平和の
とうと さいにんしき き かい ていきょう
尊さを再認識する機会を提供するため、
まいとし がつ げじゅん がつじょうじゅん げんぱくしゃしん
毎年7月下旬から8月上旬にかけて、原爆写真パネルの
てんじ ひばくたいけんこうわ おこな へいわ てん かいさい
展示や被爆体験講話などを行う、平和展を開催しています。



◆ へいわ 平和ポスターコンクール 2003 (平成15) 年～

へいわ え か こ せんそう
平和についての絵を描くことにより、子どもたちが戦争の
ひ さん へいわ とうと かんが き かい こ
悲惨さや平和の尊さについて考える機会をつくり、子どもた
ちへいわ たい いしき はぐく もくてき し
ちに平和に対する意識を育んでもらうことを目的として、市
ないかくがっこう じどうせいと たいしょう じっし
内各学校の児童生徒を対象としたポスターコンクールを実施
しています。





ひろしまへいわ きねんしきてんちゅうがくせい はけんじぎょう

◆ 広島平和記念式典中学生派遣事業

1996 (平成8) 年～



せんそう ひさん げんぱく おそ へいわ
戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさ、平和の
とうと まな し ない ちゅうがっこう
尊さを学んでもらうため、市内の中学校・
ぎむきょういくがっこう せいと ひろしまへいわ きねんしきてん
義務教育学校の生徒を広島平和記念式典

などに派遣し、平和活動のリーダーとしての成長を促すことを
もくてき じっし の
目的として実施しています。これまで延べ619人が現地を
けんがく
見学しました。



おやましへいわ ききん せっち

◆ 小山市平和基金の設置

2012 (平成24) 年～

へいわ と しせんげん しゅし もと へいわ おびや かくへいき はい
平和都市宣言の趣旨に基づき、平和を脅かす核兵器の廃
ぜつ せかい こうきゅうへいわ たっせい こうけん めざ おこな
絶と世界の恒久平和の達成に貢献することを目指して行う
じぎょう ざいげん かくほ おやましへいわ ききん せっち
事業の財源を確保するため、小山市平和基金を設置しまし
た。毎年、市内各学校へ平和啓発図書を配布するなどの
へいわけいはつじぎょう おこな
平和啓発事業を行っています。



せん じちゅう おやま 戦時中の小山

せん じちゅう おやまし
戦時中の小山市はどう
なっていたのだろうか？



1931（昭和6）年の満州事変をきっかけとする中国との衝突は、1937（昭和12）年に発生した盧溝橋事件を巡り戦火は拡大し、日中の全面戦争へと拡大しました。

さらに、1941（昭和16）年には、ハワイ真珠湾のアメリカ軍基地を奇襲攻撃し、アメリカ、イギリスなどの連合国を相手にした太平洋戦争に突入しました。

せん じ か こ ◆ 戦時下の子どもたち

この間、小山市域においても多くの男子が出征兵士として動員されたため、出征兵士の留守家族を支える目的で、各市町村には「銃後奉公会」が組織され、「銃後奉公」のかけ声のもとに、児童、生徒、勤労青年たちは労働力として動員されました。

小山実業学校（現小山高等学校）では、1938（昭和13）年7月21日から8月6日にかけて天翁院を宿舎にした宿泊訓練が行われ、職員14名と生徒80名が、朝4時に起床し、午前7時30分から午後6時30分まで運動場の拡張、道路の修繕や応召兵士の家庭の農事手伝いなどを行った記録が残っているほか、農地の開墾、草むしり、防空壕掘りなどの作業に子どもたちが動員されました。

くうしゅう そ かい ◆ 空襲と疎開

戦局が悪化すると、本土にも空襲の危機が迫ってきました。空襲による人員の被害を最小限に抑えるため、1943（昭和18）年から疎開が促進されましたが、栃木県は、都会からの人員疎開の受け入れに積極的であったことから、1944（昭和19）年には東京都からの疎開受け入れ要請に対し、豊田村に100世帯が割り当てられたほか、避難者の収容計画では同じく豊田村に2,440人が割り当てられたとの記録があります。小山市域の各町村でも疎開者を大勢受け入れたことから、児童数が増加しました。

さらに、各家庭では空襲に備えて住居内部や庭などに防空壕がつくられ、小山町では城跡（現城山公園）に大防空壕がつくられました。

小山市域は米軍機飛来の通路に当たるため、軍需産業の他、列車や駅、橋などが、銃撃を受けることがありました。空襲による機銃掃射で1945（昭和20）年2月25日に城北地内で1名死亡、同年8月4日、小山駅付近で3名が死亡、4・5名が負傷した記録があります。



▲ 勤労奉仕の小山高等実践女学生
（昭和17年頃）【小山市立博物館 提供】



▲ 疎開児童（中小学校、昭和20年）
【小山市立博物館 提供】